

- まちづくりの方針では、
- ・公園緑地の整備方針として、市内外の人々が訪れ、集い、賑わう拠点である駅前や大規模な公園等の充実、都市公園の不足している地域等における公園緑地の整備、既存公園の再整備などを位置づけています。
 - ・緑地保全・緑化として、水郷県立自然公園の保全、多度山周辺等の樹林地の保全、河川の保全、生産緑地地区の保全などの緑地保全や、街路樹の整備、緑化活動などの緑化推進を位置づけています。

(3) 桑名都市計画区域緑のマスタープラン(平成4年3月)

- この計画は現在の「緑の基本計画」に改正される以前の都市の緑に関するマスタープランで、当時は桑名都市計画区域(旧桑名市、旧多度町、旧長島町、木曾岬町、東員町、旧員弁町)における計画として策定されたものです。
- 目標年次を平成22年に設定し、推計人口236.0千人(市街化区域190.0千人)、市街化区域面積4,176haとし、以下のような目標水準を設定しています。

【図表1-4】緑地確保の目標水準

目標水準	市街化区域面積に対する緑地量	
緑地の確保目標水準	木曾三川を含む場合 おおむね3,891.4ha 93.2%	(参考) 木曾三川を含まない場合 おおむね1,732.0ha 41.3%

【図表1-5】都市公園等の施設として整備すべき緑地目標水準

年次	平成2年	平成12年	平成22年
目標水準(木曾三川緑地含む)	67.2m ² /人	100.6m ² /人	133.3m ² /人
(参考)(木曾三川緑地含まない)	4.5m ² /人	25.2m ² /人	41.4m ² /人

(4) 桑名市景観計画

- 桑名市では、景観法に基づく景観行政団体をめざし、長期的、総合的視野に立った景観づくりを展開するため、平成19年度、20年度で景観計画の策定を進めています。
- 景観計画では、桑名市の持つ自然、歴史、文化等から見た桑名市にふさわしい良好な景観の保全と形成を図るため、その区域の設定、良好な景観形成に関する方針、そのための行為の制限に関する事項等を定めようとするものです。
- 桑名市では、緑や水などの自然を景観の大切な素材ととらえて、景観計画に位置づけるとともに、緑の基本計画との連携・相乗効果により、美しいまち並み景観を備えた、良好な居住環境の実現をめざしています。

第2章 桑名市の概況

2-1 概要

桑名市は三重県の北部に位置し、木曾三川の水郷地帯や養老山系の南端となる多度山の豊かな緑と恵まれた自然環境を有し、高速道路や国道、鉄道など主要幹線が集中する交通の要衝にもなっています。また、江戸時代より東海道五十三次の宿場町・城下町として栄えた歴史と文化を持つまちです。

桑名市総合計画では「水と緑と歴史が育む豊かな快適交流文化都市」を将来像と定め、市民とともに住み良さ日本一をめざしたまちづくりを進めています。

2-2 自然条件

(1) 位置・面積

桑名市は三重県北部の東経136度41分、北緯35度3分に位置し、市域面積13,661ha、南北に17.5km、東西に16.5kmの広がりをもつ都市です。隣接都市には四日市市、いなべ市、木曾岬町、東員町、朝日町、川越町、愛知県の愛西市、弥富市、岐阜県の海津市があります。



(2) 地形・地勢

桑名市の地形は北部の多度地域に養老山系を有し、市中央部にかけて丘陵地を形成しています。市東部の長島地域は木曾三川の河口部に位置し、幾度となく水害に見舞われていますが、木曾川が明治の改修によって完全に分流され、現在のような地形となっています。この長島地域独特の輪中や、桑名、多度地域側の揖斐川沿いには水田地帯の平野が広がっています。

南部には員弁川が東西に流れ、川をはさむように水田地帯が広がる平野となっています。中央部から西部の丘陵地は、昭和40年代から大山田地区(194ha)、蓮花寺地区(82ha)の住宅団地開発をはじめ、現在でも播磨地区(156ha)、小山地区(67ha)において大規模な開発が進められています。

市内には揖斐川、長良川、木曾川をはじめ、多度川、赤沢川、肱江川、新堀川、大山田川、沢北川、東川、流石川、三砂川、新田川、長島川などの一級河川、員弁川、三孤子川、弁天川、嘉例川などの二級河川が流れるとともに、養老山系を流れる小河川等があります。